



発行2024年2月1日

2月 第264号

奈良・人と自然の会



<初出式の餅つき>



Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



初出式・10年継続会員植樹式レポ	1	半世紀前の仕事の思い出	7
ならやまプロジェクト	2	カキの病害虫-2	8
Monthly Repoならやま	3	Galleryならやま	9
里山の今（パト・果樹）	4	行事案内	10
里山の今（虫だより・花だより）	5	幹事会報告・編集後記	11
佐保川小学校冬の学習支援レポ	6		

初出式

・10年継続会員記念植樹式レポ

山本 隆造

1月11日暦の関係でやや遅くなったが、初出式と10年継続会員記念植樹式が行われた。久々に行動制限の無い正月と天候に恵まれ80人ほどの会員が参加して賑やかな1日であった。

初出式と餅つき

千載会長の挨拶。今年は正月早々から能登の地震災害、航空機事故と大きな災害や事故があった。自然災害は避けられない部分もあるが、ミスによる事故は防ぎたい。今年も1年「明るく楽しく無理をせず」で乗り切りたい。との言葉があった。



昨年に引き続き餅つき、七草粥の準備。3基の釜で湯沸かし、もち米のセイロ蒸し、七草粥と手際よく進められる。

10時半頃に餅つきが始まった。千載会長に続き辰年の年男、年女や力自慢が杵を振るった。



昼の時間となり出来上がったきな粉餅とおろし大根餅、七草粥が全員に振る舞われた。熱々の七草粥と1斗の餅で、全員が満腹感を味わった。さらに追加で出来上がった黒米餅と残った白餅はお持ち帰りのお土産となる。



10年継続会員記念植樹式

昼食後、西側里山入口脇で10年継続会員記念植樹式が行われた。今年の対象者は13名。足立勝洋、奥谷佳由里、奥谷久那子、小山喜与男、高城光一、宝田史子、田矢恵造、辻本愛子、辻本正則、辻本正子、中井弘、中川徹、福田美伸の各氏で、内9名が参加した。

千載会長から10年間の活動の労いと今後の活動への期待の言葉があり、10年継続会員の手によりヤマボウシの植樹と銘板の取り付けが行われた。



10年継続会員を代表して中井さんから、今後も部分皆伐と植樹による里山の更新など里山保全に努めたいとの挨拶があった。

ヤマボウシが大きく育ち、サイクリングロード沿いで白い花をたくさん咲かせてくれることを見守りたい。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

新年早々悲惨な出来事が続き、素直におめでとうと挨拶できない。厳寒の中の被災地のことを思うと心が痛む。一日も早く日常を取り戻せるように祈る。それでも新年を迎えたならやまではみんなで搗いた餅、健康を願う七草粥がふるまわれ、元気な仲間たちが活動を開始した。10年継続会員によってヤマボウシが記念植樹され、数年後には咲いてくれるであろう白い花を想う。あわせて今年も安全で楽しい活動ができるようにと願う。

冬野菜の収穫も一段落し、雑草がはびこることもなくややゆったりとした時間が流れる中、里山グループではシイタケイベントに向けて榎木づくりやその置場の整備、植樹用実生苗木の掘り起こしなど準備に忙しい。協働活動では植樹場所での穴掘りが予定されているが、そのほかでもみんなで協力して無理のないように進めたいものだ。

2月の活動特記事項

2月1日(木): 協働活動(植樹場所整備、アダプトプログラム)

2月17日(土): シイタケイベント(雨天時: 24日に順延)

2月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	シイタケ榎木玉切りと運搬整理、薪割り、林内整備 イベント準備(植樹用苗木掘り起こし、植樹支柱と銘板作り、遊びの森遊具など) ユート: アカマツの森での雑木間伐と整備
エコファーム	春野菜の準備(除草と堆肥入れ) ジャガイモ畑の整備(畝立て)、ソラマメ支柱立て 新ハウスの設置、鹿ネット補修
景観	整備: 竹林整備(チッパー処理)、ミツバチ巣箱整備 ビオ: 池・水路の景観保全・整備 花: 野草園の整備・草引き
パトロール	1~3コースパトロール、桜山観察路整備 メンテ: 水田入り口階段補修
果樹	コンポスト柵作りとコンポスト材料の投入 スギの伐採と輪切り、ミカンの植え床作り、グミの移植 鹿よけフェンス下の防草シート張り

活動日: 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

12月21日(木) 晴 71名

今年1番の寒さの為、ならやま委員会は17時からZOOMで行うことに変更。迎春の準備に取り掛かる。

里山Gは、景観G塩本さんの応援で門松用の竹の切り出し、伐倒したコナラの玉切りと運搬、ミニ門松用の竹の加工、薪割り。ユートピアクラブはアカマツ林の間伐、整理など。エコGは里芋などの収穫、ハウス予定地の整備、肥料小屋の整理。景観Gは第3駐車場法面の笹刈り、竹の整理、門松作りなど。花班は花生姜の刈取り、ナニワイバラの剪定。バイオ班はバイオエリアの水路の泥上げ、3面側溝の掃除、落葉除去。パトロールGは桜山の伐採した笹の撤去、BC整理、観察路1コースのパトロールなど。果樹Gは鹿除けフェンス下の防草シート、橘への寒肥施肥。

12月28日(木) 晴 58名

今年最後の活動日。少し参加者が少なかったが各Gでは整理整頓・掃除がなされ、門松、しめ縄も飾られ迎春準備が整った。

里山GはBC入り口への門松の設置のほか、シイタケ楯木用コナラの伐倒、10年継続会員の植樹準備など。エコGはハウス予定地・肥料小屋の整備、大根など野菜の収穫。景観Gはならやま大通り沿い法面の竹等の除去、花壇用チップ作り、BC内のゴミ除去など。花班は藤棚の下にチップをまき、迎春準備、ニゲラ、オルレアの移植など。バイオ班は3面側溝の掃除、バイオエリアの水路の泥上げ。パトロールGは観察路2コースのパトロール、桜山整備、備品点検など。果樹Gは鹿除けフェンス下に防草シート敷き、橘への寒肥施肥、実りの森掃除。



1月11日(木) 晴 84名

+2名(奈良県 景観・自然環境課)

初出で久しぶりに84名の参加があり、午前中は餅つき、七草粥、午後には10年継続会員による記念植樹が実施された。餅つきでは年男、年女を中心にかわるがわる杵が振るわれ、記念植樹は10年継続会員によってならやまの入口にヤマボウシが植えられた。

各Gとも初出式、記念植樹に参加・協力するほか、里山Gは門松などの撤去、シイタケ楯木の玉切り。エコGはそら豆の定植、チップ入れ、白菜などの収穫。景観Gは初出式、10年継続会員の記念植樹に参加。花班は山野草園の草引きなど。バイオ班は水路の掃除、バイオエリアの木に施肥など。パトロールGは緑陰広場にヤマボウシを植樹、観察路1コースのパトロール、佐保川小学校学習支援の下見など。果樹Gは甘夏ミカン、レモンの収穫と橘などの剪定。

1月19日(金) 晴 32名

前日雨の為、翌日金曜日の活動となり参加者が少なかった。各グループは少ないながら活動を行った。1月27日の交流会の案内、2月17日のシイタケイベント、2月26日の月例研修会(小泉)の案内を行い、参加をお願いする。

里山Gはシイタケ楯木置場の制作・整備、薪割りなど。エコGは白菜その他野菜の収穫など。景観Gは自転車道沿いの整備。花班は野草園の草引き。パトロールGは観察路2コースのパトロール、桜山観察路整備、佐保川小学校学習支援の打合せなど。果樹Gは記念樹の富有柿に寒肥施肥、ウメなどの剪定。

パトロールグループ



果樹グループ

続・観察路を歩いてみませんか

桜木 晴代

パトロールグループの生い立ちは、守口さんが会報誌第210号に詳しく記しています。

現在は12名のメンバーがおり、毎週2名ずつ、3つの観察路のコースの点検及び整備等を目的に順番で回っています。

私はなかなかコースが覚えられず、いつも後ろから付いて歩くのですが、他のメンバーは観察路の地図が頭に入っており、補修箇所や花の開花場所等の会話がスムーズなのです。

しかし、私のようなコースを覚えられない者でも歩けるように、また、話題になっている箇所が共有できるようにと、今では、観察路にはコースを示す道標や、どの位置かがわかるように、「小羊歯の辻」「ツチグリ辻」「ツツジの道」等と名前がつけられ、また、手すりとなるロープも張られ、とても歩きやすくなりました。

生い茂る笹を刈り、階段を作り、補修し、木々に名札をつけ、常に観察路を歩きやすい状態に保ち、里山林を健康に保つという活動をしているのがパトロールグループです。

しかしその観察路が活用されることは稀なので、非常に残念な思いをしているのがパトロールグループのメンバーなのです。

時には、観察路を歩きませんか？ 里山林では、春は小鳥の声を聞きながら野の花を賞で、夏は森林浴、秋はコシアブラやタカノツメの黄葉を、冬はカサコソと枯れ葉を踏みながら木漏れ日を浴び、四季折々の自然の変化を知ることができます。

掲示板に里山林の鳥や花などの写真をリアルタイムで掲示しています。まずは情報をキャッチしてください。そして実際に観察路を歩いてください。歩いていただくことが観察路が生きる時です。観察会も開催予定です。是非、多数のご参加を！

ブルーベリー栽培の工夫

有元 康人

果樹グループでは、グループ発足前からブルーベリーの栽培を行っていました。

初期の数年はブルーベリーは収穫できていましたが、しだいに収穫量が落ちてきました。肥料の量や夏場の散水など工夫しながら育成管理を行いましたが、2022年は収穫量が0まで落ちました。

管理方法の改善が必要になり、2022年の秋から、3つの畝を作り生育状況を観察しました。

1. 現状の畝 2. 既存の畝を30cmの高畝に変更 3. 竹の柵で40cmの高畝を作りブルーベリーを移植した。

2023年の収穫は、既存の畝の収穫量が悪く、30cmと40cmの収穫量は同程度で、ほのぼの市場で販売できるまで回復しました。



秋から冬になると、30cmの高畝と40cmの高畝のブルーベリーの木の生育状況の差が大きくなり、2024年は40cm



40cmの高畝

の高畝を作り既存の畝の残ったブルーベリーを移植して栽培するように計画しています。水はけの良い40cmの高畝にすると、夏場にブルーベリーの実が、しなびた状態になる木が一部ですが出ました。夏

の高温時期は、臨時活動で給水が必要か？

鳥による被害は、栽培農家での講習等で無いと思っていましたが、鳥に食べられた様子が観察され、2024年は鳥対策も、費用をかけない方法での取り組みが必要になると考えています。

2024年以降も育成状況の観察を行い、最適な育成環境を作っていきます。

虫だより

オオスズメバチの越冬

菊川 年明

真冬に野外で昆虫を目にすることはほとんどありませんが、案外に多くの昆虫（成虫）がいろいろなところで冬を過ごしています。今回はその中からオオスズメバチの越冬をご紹介します。

オオスズメバチの大部分は秋の終りまでに死に絶えますが、次世代の女王蜂になるメスの個体だけは越冬します。オスとの交尾は秋に済ませており受精した状態です。越冬場所は日光の当たらない朽ち木の中、樹洞、地中などです。日光の当たらない場所を選ぶのは気温変化が少ないからです。

このメス蜂は翌春の4月頃に冬眠から醒めて活躍を始めます。まず地中や樹洞などで巣作りをし、産卵し、幼虫の餌集めなど養育をします。すべて独力です。この時期のオオスズメバチ(女王蜂)はこのような仕事で精一杯ですから、人が近寄っても攻撃することはないと言われています。

7月になると最初の幼虫が羽化します。すべて働き蜂です。その後の女王蜂は産卵だけに専念し、その他の仕事はすべて働き蜂が行います。幼虫はどんどん増えて、巣は巨大になります。働き蜂の寿命は2ヶ月くらいで、蜂の成虫が最も増えるのは9月のようです。

ちなみに、次世代の女王蜂が育った元の巣は一代限りで、再利用はしません。その他のスズメバチ類も越冬や翌春の行動はほぼ同様です。



花だより

「ウメ」のお話

山本 美智子

清しい香りと共に梅の花が咲きはじめた。花よし、香りよし、食べてよし、飲んでよし。

原産は中国で、日本には飛鳥時代、遣隋使と共にやって来ました。名前の由来は、中国ではウメのことを「メイ」・「ムイ」と発音する。とか、烏梅（ウバイ）が転じて、とか諸説あり。

当時は、白梅が中心で、官人や万葉人に愛され、植物では一番多く、118首のウメの歌が万葉集に収められています。

平安時代には、華やかな紅梅が好まれて、「木の花は濃いも薄いも紅梅」と清少納言も賛美し、源氏物語にも、紅梅色の濃淡を襲着(かさねぎ)した衣裳が描かれています。

また、「東風吹かば・・・」の惜別の歌を残した菅原道真の飛梅伝説。後年、学問の神様として祀られた各地の天満宮にウメが植えられ、現在、それぞれが梅の名所となっています。

江戸時代、吉祥慶賀を顕す文化が生まれ、一躍ウメが開花。文化・文芸・絵画・家紋に……。庶民の生活にも深く溶け込み、観賞用に数々の名花が生まれ、山水庭園の庭木、盆栽、盆梅で愉しまれ、観梅名所も各地に。実用として直接生活の中では、染料・薬用・食料などとしてウメの人気や需要が最高に達した時代でした。

そして、現代。日本人の美的感覚や嗜好と相俟って、当たり前、なくてはならないものになっています。

私も、ほぼ毎日お世話になっています。梅干し・梅ジャム・梅ジュース・梅酒……

「ウメ」に感謝！

「梅にうぐいす」も楽しみにしています。



佐保川小学校冬の学習支援レポ

—寒い冬に木々たちは—

小島 武雄

1月22日(月)奈良市佐保川小学校にて、今年度最後の自然観察学習支援が行われました。4年生対象で午前中の2時限9時30分からと10時35分からそれぞれ45分です。

当会から、山本、桜木、坪井、東、足立、小島の6名が講師として出席しました。

朝9時、この時期としては暖かな校庭で、佐保川の森にある16本の樹木に番号札取り付けなど準備を行います。



始業のチャイムがなり校庭に子どもたちが元気よく集合しました。当会の挨拶と講師自己紹介の後、これからやってくる春の準備をしている

「冬芽」の話をして早速3班に分かれ、それぞれの樹木に集まります。主な樹木は、クスノキ、ハナミズキ、クヌギ、ドウダンツツジ、イロハモミジ、アキニレ、ヒラドツツジなど、それぞれはとても小さな芽ですが、赤い花芽、尖った葉芽、丸い蕾、ビワの白い花、葉っぱの中に隠れている花芽、模様、今にも咲きそうな蕾もあり。子どもたちは一生懸命に探し出して、興味深く観察。

フタバガキの種、ドングリについては、根の出

たコナラの実を集めて、根がどこから出て、どんなふうに伸びるのかを分かるようにパネル展示。そして先生にお願いして、皆に配って家に持ち帰ってもらい、庭や植木鉢でどのように成長するか観察してもらうことに。イロハモミジの種が枝に少し残っているのを見せて、種がどのように飛んでいくかの体験をしました。



持参した大きなフタバガキの種を飛ばして、大きく回転するのを見せた上で、型紙で作った模型を輪ゴムで飛ばす実験をしました。初めは、上手にできませんでしたが、コツをつかんでからは、歓声を上げて校庭で何度も空に飛ばし、夢中になって走り回りました。



今年度は、春の樹木観察から始まり夏の自然工作(熊のペンダント)秋は春からの樹木の変化、そして、今回の冬芽と4回の自然教室が開催できました。子どもたちからは、来年も「もっとやりたいー!」との声も上がりました。

終了後、校長室で学校の歴史などの話を伺い、来年度の学習支援予定を確認しました。

半世紀前の仕事の思い出

中西 建夫

最近、昔のアルバムを見ていて、半世紀前に勤務していた自衛隊の写真を見つけました。

私は、陸上自衛隊の無線通信中隊に所属(昭和36年～昭和39年)して、退職してから半世紀以上になります。



自衛隊に入隊するには、強力な体力及び気力が必要

とします。入隊時に身体検査は全裸です(下着・パンツ・下着類無し)。血液を牛乳瓶1本分採取されましたが、これには体力がありませんでした。バツタリ倒れました。

前期教育は京都大久保駐屯地において3か月で終了して、後期教育は横須賀武山駐屯地でした。近くに神奈川県三浦半島先端に城ヶ島があり、風光明媚

(めいび)なところ。外出許可証を取ってよく出掛けました。丘に立てば足元には大根畑等、顔を上げると東京湾出入口には豪華客船・タンカー・コンテ



ナ船等が航行していて、見ていると飽きません。私は勤務地として、大久保駐屯地・武山駐屯地・豊中基地・伊丹緑ヶ丘中部方面通信群を回りました。

昭和38年1月に起きた北陸地方を中心とした、歴史的な豪雪を思い出しました。サンパチ豪雪と言われています。



昭和38年に豪雪に埋もれた福井駅へ災害派遣で出動しました。出動して2日目あたりから朝日を浴びて列車の下を見ると、黄色い物が入る。昭和中頃は垂れ流しでした。列車の中は保線作業員の休憩場所だと後で聞きました。

自衛隊員は近くの学校の体育館で休息しました。夜は小学校の体育館の中で、寝袋一つでは腰が痛くて眠れない・・・? 福井駅周辺の長屋の住人は2階から出入りしている状態でした。1週間ほど福井駅周辺で滞在しました。最終日近くになって、紡績会社から救難要請が舞い込みましたが会社には雪でトラックが出入りできません。30名近くの隊員が歩いて行き活動しました。紡績会社の救難活動する前に、外套(がいう)を会社の会議室に置いておきました。帰りにその外套のボタン2個取れていたのが取り付けてあった。お礼を言うことなくその場をたちました。今だに頭の隅にあります。

自宅近くには航空自衛隊奈良幹部候補生学校があります。学生たちの堂々とした態度を見ることができます。自分はどうかと聞かれたら、のりくらりした態度しかできませんでした。

カキの病害虫—2

人畜有害

木村 裕

カキノキには、チクチクと肌を刺すイラムシ（イラガ類の幼虫）がよく発生するのでそばに近寄るのを警戒されている方も多いことでしょう。その通り、この虫はよく発生します。葉の裏にじっと潜んでいるのに気づかずうっかり触れて痛い思いをします。

【イラガ類】

なまこ型の毛虫で、刺には毒あり、触れるとピリピリとした痛みが走ります。しかしこの痛みは数時間で治まりますので少し辛抱してくださいとの伝言を彼らから受けています。

同時に産まれた仲間たちは、仲良く集まり行儀よく並んで葉の裏面をかじりますので、初期の被害では数枚の葉が白っぽく透かしになります。このときに葉を切り取って処分すれば問題はないのですが、放置しておくともみな独立して樹全体に広がるので厄介です。



上：ヒメクロイラガ、 下：イラガ



由緒正しい正統のイラガはめったにお目にかかれませぬ。最も多いのは青

っぽいアオイラガと黄色のヒメクロイラガです。いっとき大発生したが最近少なくなっているのがヒロヘリアオイラガです。

【マイマイガ】

黒っぽい毛虫で、背中に白い斑紋のように見える毛があります。毒はそれほど強くはありません。糸を出してゆらゆらとぶら下がることからブランコ毛虫とも言われています。成長すると小指くらいになり、赤、青、黄色などカラフルな毛でおめかしします。



【カキクダアザミウマ】

葉が葉巻きタバコのように縦に丸まることがあります。これは小さな肌色の虫（幼虫）がとりついて汁を吸ったためです。葉を開いて確認してください。ときには黒っぽい虫（成虫）がいることもあります。



【病害】葉に角張った褐色の斑紋を生じる落葉病がよく発生しますが無視しても大丈夫でしょう。また、葉に白い粉のようなものがつくうどんこ病も発生することがあります。



Gallery ならやま



水彩画 東大寺中門 戸田博子



陶芸 咲いたかな 小島武雄



陶芸 まったり白犬軍団 國方まり子



陶芸 水挿し 坂東由紀子

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



「椎茸イベント」のご案内

山本 隆造

本年も「シイタケ菌打ちイベント」を実施します。公開イベントとして子供たちの参加を募り、自然環境教育の一環として、下記の要領にて実施します。

記

- 1.日 時：2月17日(土) 9:00~15:00
雨天(前日19時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の午前中の降水確率が50%以上)の場合は、2月24日(土)に延期
- 2.場 所：ならやまベースキャンプ及び里山林
- 3.内 容：
●シイタケ菌打ち、●コナラの植樹、●里山遊び●クラフト体験を2班に分かれ、1時間ごとのローテーションで実施します。
- 4.参加者：小学児童とそのご家族、
並びに会員のご家族
- 5.持ち物：タオル、軍手、ごはん、お椀、飲物
服装は長袖、長ズボン、防寒着、歩きやすい靴でご参加ください。
- 7.昼食にブタ汁を提供します。
- 8.参加されたご家族には、駒菌打ち済みのホダ木を1本、お持ち帰りいただきます。

◆例年の通り、たくさんのスタッフが必要です。会員の皆さまのご参加をよろしくお願ひします。ご参加いただける方は、ベースキャンプ横に張り出しています「スタッフ募集表」にお名前をご記入ください。



月例研修会のご案内

大和三名園「慈光院」と小泉の里の散策

冨井 忠雄

JR大和小泉駅を起点に、小泉城跡、小泉神社、小泉大塚古墳、慈光院などを巡ります。

小泉城は、800年代、小泉氏の拠点として戦国末期まで統治され、その後片桐氏によって治められ明治維新まで永く続きました。

慈光院は、1663年片桐石州が父貞隆の菩提寺として建立した大徳寺派の寺院です。境内全体が茶席の風情になるように、門や玄関までの道、座敷や庭園が造られています。ここで遠くに大和平野を望みながらお薄をいただき、庭園を眺め静かな一時を過ごしましょう。

記

- 1.日 時：2月26日(月) 雨天→3月4日
- 2.集 合：JR大和小泉駅改札口 10時00分
- 3.持ち物：弁当、飲物、雨具、ハイキング靴
- 4.会 費：各自交通費、拝観料など

行 程

JR大和小泉駅 10時10分—安養寺—庚申堂—小泉城跡—小泉神社—善福寺—笹尾古墳(昼食)—小泉大塚古墳—六道山古墳—慈光院—JR大和小泉駅—バス—近鉄郡山駅 15時頃 行程約7km

申込先：冨井忠雄

世話人：太田、有元、冨井

◆前日午後7時前NHK天気予報で奈良北部地方の降水確率が60%以上の場合3月4日に延期いたします。



慈光院(書院と庭園)

2024年1月度 幹事会報告

開催日：12月26日



「免疫力アップの梅ジャム
毎朝美味しくいただきました。
ありがとうございました」。果

樹グループの返却されたジャムの瓶の中に入っていたお手紙！有機無農薬で育てた、梅、柚子、檸檬、甘夏、橘、無花果、ブルーベリー、キウイ、安心安全だけは折り紙付きのチョットいびつな果実たち！ああでもない、こうでもない、色々相談しながら、試行錯誤を重ねて、ジャムや、マーマレード、ピールなどに加工して、ほのぼのの基金にご協力いただき、皆さまに食べていただく。思わず優しいお手紙を頂き大感激！認めて頂くってうれしいことですね！もっと美味しいものを作りたいって力を頂きました。近頃はジャムを心待ちにして頂く方がふえてきました。ありがたいことです。

里山で、昔から紡がれ続けてきた、自然の恵みをしっかりと頂く、地に足のついた生活。その生活の一端でも担わせていただく活動を楽しんでいきたいと考えています。

お手紙を頂いたどなた様か本当にありがとうございました。見習いたいものです。

3月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

3/7 協働活動日

会員動向<敬称略>

<退会者> 12/22 松本 武彦

1/18 大畑 むつみ

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木（幸）・青木（芳）・尾崎

千載・田中（善）・戸田・豊田

表紙写真：辰年の年男、年女や希望者が力いっぱい杵を振いました。

I. 会計・総務部より

- ・会員動向:退会1名 144名(家族15名)
- ・会計:収支報告あり

II. 活動・行事関係

*ならやまプロジェクト関係

- ・賄い・水・トイレ掃除の担当を決めた活動予定表に当番の氏名を記載するとともに3か月先までの当番表を開示する
- ・1/11 10年継続会員記念植樹
- ・過去の記念植樹の現状を確認し1/11初出の終礼時に報告をお願いする
- ・1/27 新春交流会と懇親会
各Gは参加者を勧誘のこと
- ・2/17 シイタケ菌打ちイベント
佐保台小児童家族と会員家族

IV. 企画、助成金事業案件

- ・来年度助成：イオン環境財団

V 特定議題

- ・来年度予算作成について
各Gからの申請→審議→予算の仮決定
- ・幹事改選 現幹事を含めての改選
現幹事は10名以上を推薦のこと

VI. 広報関係

- ・ネイチャーなら2月号編成内容説明

VII. 報告・連絡事項、その他

- ・自然教室 佐保川小学習支援 年間4回終了
- ・月例研修会 2/26 小泉の里予定
- ・会員名簿は個人情報保護の観点から配布しない(必要な方には個別に開示する)
- ・土日活動の試行について今後検討する

以上

次回：1月30日 中部公民館にて